

山形国際ドキュメンタリー映画祭 / アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭

フェニックス映画祭 / サンタバーバラ国際映画祭 / ベイルート国際女性映画祭 スペシャルメンション / this human world 国際人権映画祭

ネプロディ・シネマ・ドック / タッチストーン独立映画祭 / メトロポリス映画祭 / フィルムアメッド ドキュメンタリー映画祭

ナポリ人権映画祭 / ラト国際作家映画祭 / スtockホルムSAMA国際映画祭 / カルガリー・ジャスティス映画祭 / ハリウッド・パーク映画祭



女性が教育を受けられない唯一の国、タリバン支配下のアフガニスタン。
夢も希望も奪われ、傷つき、それでも声を上げ続ける——

Shot the Voice of Freedom

撃たれた自由の声を撮れ

監督・撮影・製作：ザイナブ・エンテザール

編集：モハメド・サミブル 制作：Lumier Film

日本語字幕：吉田ひなこ 字幕監修：後藤絵美、アウイード 配給：東風
アフガニスタン | 2024年 | 70分 | タリ語 | DCP | 英語: Shot the Voice of Freedom © Lumier Film

tofoofilms.co.jp/afghan/shot





2021年8月

米軍が撤退し、タリバンが首都カブールを含むほぼ全土を掌握。20年にわたる民主政権が崩壊した。タリバン復権によってふたたび女性たちは外で働く場を失い、教育の機会を奪われ、少女たちは親よりも年の離れた男たちと結婚させられ、家に閉じ込められる——。ラシュミンとナスタランの姉妹は、ほかの女性たちと共に街に出ては声を上げる。「私たちはひるまない」。銃を構えた男たちに言い放ち、この国の現状を発信すべくスカarfにスマートフォンを隠し撮影する。親族宅などを転々としながら抵抗を続けるが、家父長制が支配する社会。デモに参加する女性たちを父親は軽蔑し、隣人からの密告にも怯える日々だ。殺されるかもしれない、血の凍る思いをしてもなお街に飛び出していくラシュミン。次世代に同じ苦しみを経験させたくない、その想いが彼女を突き動かす。「未来の子どもたちだけは私たちアフガン女性を誇りに思うはず」。



いつだって奪われ
踏みこじられるのは
小さな私たち。
でも、いつか
世界を変えるのも、
この小さな私たちの声だ。

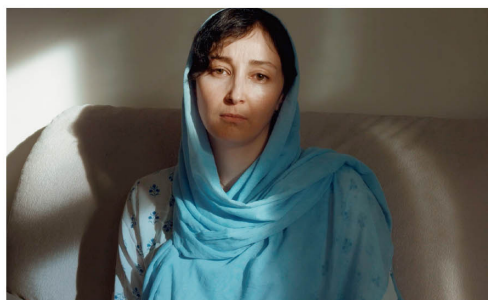
“次は平和な世界で会いましょう”

彼女たちの願いを、世界はいつ叶えられるというのか。

この怒りと絶望を私たちは直視出来ているだろうか。世界に届けなければこの声は無かったものにされてしまう。沈黙は、この現実を受け入れ認めていることになってしまふ——女性監督であるザイナブ・エンテザールも自らと家族の身に危険を感じながらも、暴力に立ち向かう彼女たちの闘いの日々を追従する。

亡命先で完成した本作は世界各国の映画祭を渡り歩き、多くの人に痛みと連帯の想いが刻まれ続けている。タリバン復権から5年、そして世界中が戦禍のいま、“平和国家日本”の足元が揺らぐこの国で劇場公開となる。命がけの抵抗の記録を、遠い国の物語で終わらせていいはずがない。

⊗ HawaShot ⊙ tofoo_films tofoofilms.co.jp/afghan/shot



8/15 (土) より

ロードショー

ムビチケ前売券 (オンライン) ¥1500 (税込) 発売中!

ポレポレ東中野
03 3371 0088 pole2.co.jp
JR東中野駅南口東札北側出口より徒歩1分
都営大江戸線A1出口より徒歩1分

有楽町イトシア イトシアプラザ4F
〒テアトルシネマグループ
ヒューマン・トラストシネマ有楽町
03 (6259) 8608 ttcg.jp

8/1 (土) ~ 『ハワの手習い』 (ナジーバ・ヌーリ監督) 同劇場にて公開

